

課題名	慢性硬膜下血腫患者の予後と入院期間に関する研究
承認番号	2025-11 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 脳神経外科 氏名 三宅 茂太
研究期間	(西暦) 2025 年 6 月 ～ (西暦) 2027 年 3 月
研究の意義・目的	この研究は、当院で慢性硬膜下血腫の手術を受けた患者さんを対象に、治療後の入院期間やどのような経過をたどったのかを調べるものです。 その結果、よりよい治療や救急対応の方法を考えることができ、将来的に多くの患者さんの命や生活の質を守ることにつながります。 ＊ 慢性硬膜下血腫とは、頭部外傷後に、硬膜（脳と脊髄を包む 3 層の膜のうち一番外側にある膜）と脳の間に血液がゆっくりと貯留し、血腫を形成する病気です。通常、外傷後数週間から数ヶ月後に症状が現れます。主な症状は頭痛、歩行障害、認知症様症状、手足の麻痺などで、高齢者に多く、治療法としては手術（血腫除去）が一般的です。
研究の方法 (対象期間含む)	この研究では、2020 年 1 月から 2025 年 3 月までの約 5 年間に、当院で慢性硬膜下血腫の手術を受けた 18 歳以上の患者さんを対象にしています。 治療にかかった時間、行った手術や検査結果、入院期間、退院後の回復状態など、すでに記録されている診療情報を利用して分析を行います。 この研究では、新たに検査や治療をお願いすることは一切ありません。すべて過去に記録された情報だけを使います。 この研究によって、手術治療の効果や、どのような患者さんで入院が長期化しやすいかなどを明らかにし、今後のより良い医療の提供に役立てていきます。
試料・情報の利用目的及び 利用方法	診療記録や検査結果などの情報を使って、治療の内容、回復の様子を分析します。 患者さんのお名前や住所など、個人が特定される情報はすべて削除し、匿名化されたうえで統計的な処理を行いますので、個人情報が入外に漏れることはありません。 また、外部にデータを提供することはありません。
利用又は提供する 試料・情報の項目	- 患者属性（年齢、性別、基礎疾患、内服薬、嗜好歴、生活背景） - 手術内容（ドレナージ術の有無、残存血腫・ドレナージ量、術後 CT） ＊ ドレナージ…体内に溜まった血液などを体外に排出する処置 - 入院期間 - 退院時の転帰（mRS : modified Rankin Scale、GOS : Glasgow Outcome Scale、死亡率） ＊ mRS…脳血管障害や神経障害の機能的アウトカムの一つ ＊ GOS…脳損傷後の患者の機能的転帰を評価するグローバルスケール
試料・情報を 利用する者の範囲	横浜市立みなと赤十字病院 脳神経外科 三宅 茂太
試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	横浜市立みなと赤十字病院 脳神経外科 三宅 茂太
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 所属 脳神経外科 氏名 三宅茂太 TEL:045-628-6100 (代表) 内線 3808 (事務局) / FAX:045-628-6101